

第2回学校運営協議会報告（広尾小）

来年度の教育課程編成の基本的な方針となる、「重点教育目標」、「育成を目指す資質・能力」、「各教科等における指導の重点」が承認されました。

1 平成31年度の重点目標

◇思いやりや感謝の心もち、郷土を大切にする子ども

◇主体的に学び、粘り強く行動する子ども

（育成を目指す資質・能力）

- ・地域の人たちとかかわりながら町のよさを知るとともに、周りの人たちに思いやりや感謝の気持ちをもって接することができる態度を身に付ける。
- ・課題や問題に対して主体的にかかわり、各学年に応じた知識・技能及び思考力・判断力・表現力を身に付ける。
- ・物事に対して、途中で諦めずに最後までやり抜く態度を身に付ける。

2 各教科等における指導の重点

① 各教科等において次の知識及び技能を身に付ける。

- ・町の歴史、文化や産業等について、調べたり、まとめたりするなどの活動を通して、町に対する知識を身に付ける。（社会、総合的な学習の時間）
- ・繰り返し学習を大事にし、基礎的基本的な知識及び技能を確実に習得する。（各教科）

② 各教科等において次の思考力、判断力、表現力等を身に付ける。

- ・特質に応じた見方・考え方を働かせながら、深く理解したり、創造したりすることができる。（各教科）
- ・目的を意識して、調べたことをまとめたり、伝えたりすることができる。（国語）
- ・町の歴史や様子をとらえることで、町民の願いや努力を考え表現することができる。（社会）
- ・探求的な学習を通して、情報の収集、整理・分析、表現する力を身に付ける。（総合的な学習の時間）

③ 各教科等において次のような意欲や態度、人間性等を醸成する。

- ・地域と連携しながら、積極的に体験活動に取り組む態度を養う。（各教科）
- ・自分のよさを生かしながら、周りに対して思いやりや感謝の心をもつて接する態度を養う。（道徳）
- ・学ぶことの意義や将来への希望や目標を考え、主体的に自己実現に向けて学校生活を送ることができる。（特別活動）



＊こんな学校に・・・「地域とつながり、活力と魅力のある学校」

教育環境分析

平成31年度重点教育目標

- 思いやりや感謝の心を持ち、郷土を大切にする子ども
- 主体的に学び、粘り強く行動する子ども

	学校	家庭・地域
プラス要因	① 食育 ② ふるさと給食 ③ 「津波が来るかも」という気持ちで避難訓練 ④ 若い先生方が多い（ICTに強い） ⑤ 自然の中に学校がある ⑥ 歴史がある （教育環境分析に当たって） 1. 重点教育目標を実現する上での要因を挙げました。 2. 学校の要因は主に校長、学校CS担当から、家庭・地域は主に他の委員から挙げていただきました。	① 地層が見える場所がある ② 水産業と農業の両方がある ③ 祖父、祖母が近くにいる ④ 広尾は十勝、北海道でも歴史が古い（もっと勉強しよう） ⑤ 地域に卒業生が沢山いる ⑥ 水野さんなど町外の卒業生の有名人がいる ⑦ 札幌広尾会 ⑧ 海鮮が旨い ⑨ 自然が豊か ⑩ 海がある ⑪ 酪農体験・工場見学のある場所がある（例えば十勝飼料） ⑫ 高規格道路が整備されると帯広への幅も広がる
	今の先生はやさしい（どちらの要因にも）	
マイナス要因	① スケートリンクを利用できる期間が短い ② 帯広近郊の見学学習が遠くて大変（新聞社・美術館等） ③ 時間が足りない	① 保護者の（子どもたちに対する）協力が少ない ② ダニが付いたら大騒ぎするような最近の風潮 ③ 地元のよさに気付かない ④ 広尾のよさを生かしきっていない ⑤ インターネット ⑥ 商品の品数が少ない

上記の要因を踏まえて、「地域・家庭の取組」として交流されたアイデアは次のとおりです。引き続き検討を続け、8月の協議会において現実的な取組を決定します。

1. 有害虫・有害植物を教える。
2. 「地もティーチャー」（地元の人材）を認定する。
3. 出前授業。
4. 民間人の詳しい人に先生になって貰う。
5. 広尾町の〇〇〇〇名人を見つけて、その人にいろいろ聞く。

6. 広尾町「へえーこんなところがあったのか？」探検ツアーを行う。
7. ようこそ先輩。
8. 広尾町にゆかりのある方が来町して講演等をしてくれる時の講師料を確保。
9. 都会の子と交流する機会をつくり、いかに広尾の子が恵まれているかを知る機会に。
10. ふるさと給食にゲストを呼ぶ。
11. 自分たちで自分たちのふるさと給食をつくる。
12. 山菜、木の実などを採取
13. 海鮮、山菜等を食す。
14. 山菜取り⇒食べる。
15. 地曳網⇒とれた魚を調べ、食べる。

